

第3回 大型車の車輪脱落事故防止対策に係る調査・分析検討会 議事概要

1. 日 時：令和4年9月28日（水）14：00～15：30
2. 開催方式：WEB 会議方式
3. 出席者：伊藤委員（座長）、橋村委員、山口委員、関根委員、荻原委員、田中委員（代理：横山オブザーバー）、根本委員、柳川委員、古川委員、清水委員

4. 議事(概要)

【主なご意見・ご質問】

議題1 令和3年度大型車の車輪脱落事故発生状況と傾向分析について

- 具体例として提示してあるすべての車両については、立ち入り調査の結果、適切に増し締めを実施していなかったとのことで、増し締めの重要性についてしっかりと周知していきたい。
- 増し締めについて、タイヤ脱着作業後「50～100km」での実施になっているが、運行の形態によっては実施が難しいので、距離要件でなく、経過日数等をベースとするなどの見直しはできないか。
- タイヤ脱着作業後における初期なじみなどの影響もあり、これまでの知見から最も増し締めの効果的なタイミングである「50～100km」で実施することが適切である。
- 仮にそのタイミングで実施できない場合にでもその後可及的速やかにトルクレンチを用いた適正なトルクでの増し締め実施が車輪脱落事故防止の観点からも重要であり、関係者への更なる周知徹底が重要。
- 可及的速やかな増し締めの実施について、点検整備の手引きに記載しないと徹底が図れないようであれば、手引きの改正を検討いただきたい。

議題2 大型車のタイヤ脱着作業・保守管理状況に係る調査ヒアリング調査・分析結果報告（概要）について

- 事故惹起事業者における事故惹起前のトルクレンチの保有状況について、今後分析していただきたい。

議題3 大型車車輪脱落事故防止のための啓発動画について

- 特になし

議題4 大型車の車輪脱落事故防止「令和4年度の緊急対策」について

- 業界としても緊急点検に全面的に協力させていただき、劣化したナットを排除し車輪脱落事故防止につなげていきたい。
- 増し締めの重要性について、記録簿に記載する等の取組を今後検討していく予定はあるか。
- 増し締めの重要性について整備事業者からも周知していることに加え、国土交通省が公開しているタイヤ脱着管理表にも記載欄がある。また、増し締めについては点検整備の手引きに既に記載されている。（事務局）
- ホイール・ナットの座金が円滑に回転するかどうかの確認行為は点検整備の手引きに記載され

ているが、円滑に回転しないようなものは交換が必要であることも記載すべきではないか。

- タイヤ専門店にはナットの在庫がない場合もあると思うが、どのように実施すればよいのか。
- 今回の緊急点検における無償交換については、劣化したナットと新品のナットの交換になるため、最初の在庫の確保をお願いしたい。

その他

- タイヤ専門店も基本的なトルクレンチは保有しているが、一人でも作業できるようトルクセッター等の導入支援を検討いただきたい。
- 整備事業者やタイヤ専門店は基本的なトルクレンチを保有していると理解しているが、大型車ユーザーに対して行き届いていないようであれば、タイヤ脱着作業をする者にはトルクレンチを必ず保有していただくことも含め、検討が必要だと考える。(事務局)
- ソフト面の対策以外にもハード面の対策についても検討いただきたい。
- 緩みにくい構造のナット等については、いくつかの既存の商品を見た限り、純正ナットと同様に適切なメンテナンスの実施が前提となっており、主な事故要因（劣化したホイール・ナットの使用等）から判断すると、ハード対策となるかどうか慎重な検討が必要と考えている。